

# NEWS



特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ

〒651-0095 神戸市中央区旭通1-1-1-203 (サンピア2F)

TEL078-230-9774 FAX078-230-9786

E-Mail kikin@stylebuilt.co.jp URL <http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/>

## しみん基金に新しい風を

梅雨の晴れ間が待ちどおしい季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

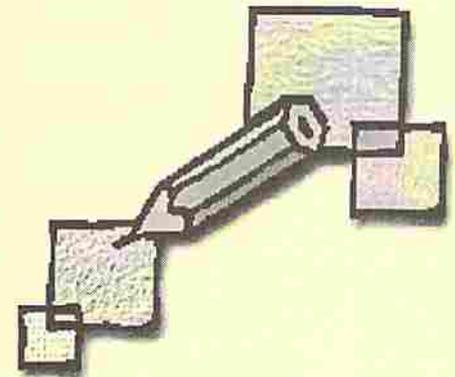
事務局の都合により長らく休刊をしておりました「しみん基金ニュース」ですが、事務局体制を一新し、内容も新たにお届けいたします。会員の皆様方には、ご支援をいただいているにもかかわらず、事業内容の情報をお伝えすることが出来ず、申し訳ございませんでした。この紙面をお借りして深くお詫び申し上げます。

設立から五年目を迎えたしみん基金・こうべは、今年三月に平成十五年度助成事業を行い、九団体、総額約三百万円の助成を致しました。また、その他にもNPOアドバイザー派遣事業（神戸市より受託事業、神戸まちづくり研究所と協働）、はーとふるふぁんど・ぼらんていああしすと事業（はーとふるふぁんど委員会より受託）等を行いました。設立当初からの助成事業は合計六回、助成した団体は延べ五七団体、総額で約三千万になります。震災を契機に社会的に重要性を認知された市民活動、その中でも草の根の活動を支援するべく、助成事業を行ってきました。当基金の設立趣旨である、「市民活動を市民の手で支える」「草の根の市民活動を支援する」という理念に変わりはありませんが、来年の一月一七日には、震災から十年目を迎え、被災地の市民活動も大きな転換期を迎えています。震災後から継続してきた被災地復興、支援に加えて、震災とはかわりのない市民活動や活動分野が増えつつあり、このような活動にも目を向けながら、草の根の市民活動の支援を続けて参りたいと存じます。更に、財源確保のために、リサイクル事業（中古品による寄付事業）も開始いたしました。心と体が一つになることがなかなか難しいように、市民活動に対する市民の意識と仕組みが一体となって動き出すまでには、まだ時間を要するよう思われます。その時が来るまで「しみん基金・こうべ」は、使命を果たすため様々な手法をもって、鋭意努力していく所存です。そのためにも皆様方おひとり、お一人のお力添えとご支援があつてこそ継続ができると共に成熟をはかることが出来ます。どうぞ更なるご支援、ご協力をお願い申し上げます。

理事長 黒田裕子

### 目次

- ▼平成十五年度第一回助成事業
- ▼平成十四年度助成合格団体のこえ
- ▼NPO/NGOのファンド・レイジングのための「ぼたんの会」とは
- ▼リサイクル事業始めました
- ▼助成金情報掲示板
- ▼ご寄付いただいた方々
- ▼あとがき



平成15年度

平成十五年第一回助成事業

助成総額三百万円

平成十五年年度の助成、通算で六回目助成のための公開審査会が三月九日コミスタこうべで開催されました。申請のあった四四団体の内、事務局の書類審査を通過した二四団体が、プレセッションを行い、審査員による公開審査の結果、九団体の助成が決定しました。

しみん基金・KOBÉの理事としては、台所事情の逼迫から募集回数を年一回にしたり助成総額の縮小を行ったにもかかわらず、昨年度を上回る多くの団体が申請してくれたことは嬉しい驚きであると同時に、しみん基金・KOBÉの役割と責任への自覚の機会でもありました。

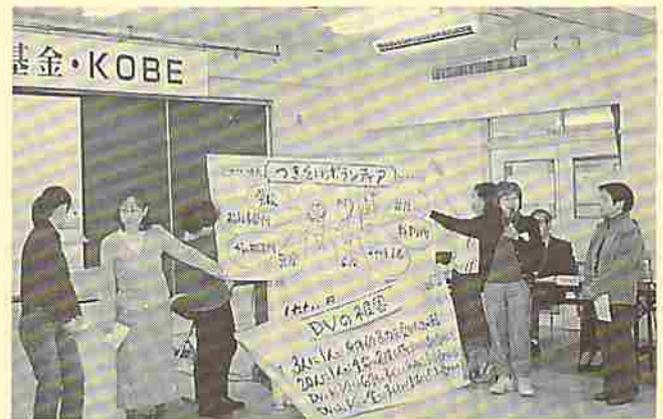
ここ二三年の間に、神戸でも民間の助成機関がいくつか誕生しましたし、そのいずれもがしっかりとした財政的基盤を持っていることから、しみん基金の役割は終わつたとする傾向も無かつたといえれば嘘になりません。しかし、二年前から「しみん基金・KOBÉ」の助成対象を明確なミッションを持った草の根ボランティア団体に絞り込んだことが、申請団体の間でも定着してきたように感じます。

第一回の助成より続けてきた理事による事前ヒアリングも他にはない大きな特徴として受け入れられ、他では見られない申請書類への受付時のアドバイスも申請団体から大きな評価をいただきました。そのこともあって、今回もまだ活動は小規模であっても、きらりと光る多くの活動に助成することが出来ました。

また、助成することで終わりにすることなく、その後のフォローアップによる支援についても、「神戸まちづくり研究所」との連携でNPOアドバイザー派遣事業を神戸市から受託し、経理・広報・IT等の部門で支援を続けています。

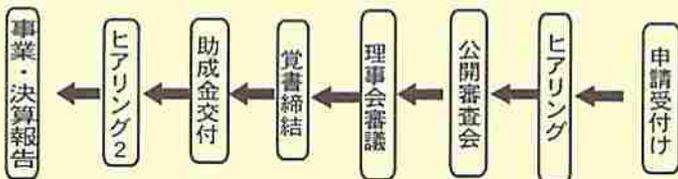
こうした活動を支える資金は、募金パーティー「夜会・ぼたんの会」やチャリティ・コンサート、チャリティ・ショーなどの収益および寄付金により賄われています。今後も、多くの団体を勇気づけボランティア活動の裾野が広がるよう、市民のみなさんの応援をお願いします。

しみん基金・KOBÉ常務理事 野崎隆一



審査会の様子 (平成16年3月)

◆助成事業の流れ◆



omedeto gozaimasu!

☆平成15年度助成金合格団体一覧表☆

団体名	事業名
ねっこぼっこの会	お話の会「ねっこぼっこの会」
子育て支援グループ「スマイル」	地域で子育て夏休みワンウィーク・サマースクール
ウィメンズネットこうべ	DV被害者支援事業
非暴力ねっとうわーく	青少年健全育成のためのワークショップ
関西ブラジル人コミュニティ	日系ブラジル人の子どものための母語教室
障害者共同作業所「にじのかけ橋」	音楽療法に使用するトーンチャイム購入資金等
市民サポートセンター明石	「くらしのサポート」のためのコーディネーター研修
神戸中央おやこ劇場	おやこまつり
(特) 移動サービスネットワークこうべ	高齢者・重度障害者の生活困窮者への外出支援活動

平成14年度



生活支援研究会

この度は、私ども生活支援研究会の「障害者地域生活支援事業」に対し、ご理解を賜り、助成を頂きまして誠にありがとうございます。国、「支援費」制度化の流れの中、障害者に対するボランティア団体の存続そのものが苦しくなってきたという折り、貴会のご理解、ご支援に対し、心から感謝致します。

支援費制度そのものも、内容の不透明さ、要項などの詳細決定の遅さの中、私どもの活動もかなり混乱しましたが、「日常生活支援」という名のヘルパー活動部門の新設が決まり、秋に神戸市でやつと制度化された「知的障害者ガイドヘルパー」と合わせて、なんとか私どもが今まで続けていた活動と、公的制度のあるものに移譲しているそうです。

仮に助成がなくなりボランティア団体としてつぶれても、障害者の生活もつづきわけにはいかない。この瀬戸際にあつて、なんとか個々の活動維持のめどだけはつきました。さらに実りのあるものにすべく、私どもは今後団体をNPO法人化へ介護派遣事業設立を計画しています。

最後になりましたが、貴会のご支援ご協力に重ねてお礼を述べると共に、今後の更なる発展をお祈りしています。



生活支援研究会「ピアサポート活動」 忘年会の様子

☆平成14年度の助成合格団体より寄せられたお便りの一部を御紹介いたします。

ほっと神戸

助成をいただき会計が赤字にならず、本当に助かりました。神戸吃音教室は毎月開催していますが、参加することによって自分への気づき、吃音の知識が増し、日常におけるストレス解消の場ともなっております。又明日からがんばって働こうという力を育める場になります。

特に、三月に行つた吃音相談会では、吃音児を持つ母親達、同僚に吃音児がいる方、きこえとことばの教室の先生方も学びに来られて吃音に対する方法の社会啓蒙になりました。助成金があつたおかげで、毎回の例会資料を吃音教室ハンドブックとして冊子にしあげ、吃音教室の毎回の資料作りの手間がはぶけるようになりました。私たちの活動を助成という形で支えていただいた事を実感し、これからも活動を続けていこうという励みになっております。

音楽療法グループ「てくてく」

この度は、大変貴重なしみん基金を我々音楽療法グループ「てくてく」に助成して頂き、誠にありがとうございます。我々は高齢者施設において、音楽療法を行つていますが、参加者の方々がとても喜んで下さり、毎回心待ちにしてください。この度、むしろ私たちが元気を頂いて次回へとつなげています。毎回施設の担当者の方と意見交換をしながら行つていますが、普段は出来なかつた事が、みんなと歌つたり話したりしての中で出来る様になつたり、一生懸命手を動かしたり、楽器を鳴らしたりされる姿に、毎回大きな感動を頂きます。私たちが皆、もつともつと経験を積み、より素晴らしいセッションを行う事が出来れば、今以上の効果の出る方がふえたり、より多くの方々に喜んで頂けるだろうと確信すればする程、私たち各々が個々にもつと勉強しなければいけないと肝に銘じる次第です。高齢者の音楽療法は、目に見える変化は少ないが、痴呆症の進行予防、発症予防という点においては、今後益々必至なもので、長期的に末永く継続していきたいと思

富士見が丘会館フリースクール寺小屋 北海道でのスキー風景



(財)富士見が丘会館フリースクール寺小屋

文部科学省の「不登校問題に関する調査研究協力会議」は二〇〇四年四月十一日最終報告をまとめている。新聞報告によると「子どもを見守る姿勢を打ち出した前回報告(九二年)から軸足を移し、「自分の力で立ち直るのをただ待つだけでは改善にならない」と働きかけの大切さを訴えた」とのこと。関係機関との連携でも民間施設やNPOとの連携を明記している。又、国立教育政策研究所の調査によると、兵庫県の不登校生の学び舎のうち民間の占める割合は二十〜四十%とある。調査・分析にあつた吉田敦彦・大阪女子大助教は、「行政は、NPO法人立など市民の学び舎づくりの力をもつと信頼し、公的な支援をしてよいのではないか。民間立の月謝が負担できない子は行きたくてもいけない。格差を広げないためにも公的なサポートを急ぐべきだ。」と言っている。これはまさに私たちが言いたいと思つていることと重なる。最近はおも学校よりうるさいといつて行かない子どもも増えていて、不登校の児童のみならず、子どもがホッと息をつき、自分そのままにいられる場所としてフリースクール寺小屋は二〇〇三年度もがんばります。この支援金は本当に助かりました。



しみん基金こうべを中核として神戸のNGO/NPOが協力し合って取り組んでいる「ぼたんの会」は、自立のための財源獲得のシステムとして、神戸オリシナルとして誇るべき事業であるとおもいます。もちろんシステムに内実を与える智恵、実行力を伴ってこそその成果で、パテント（特許）ではありませんので元祖と感嘆していても仕方がないのです。

1 目的

二〇〇二年初秋、NGO/NPOのファンド・レイジングの全国初の新しい試みであるMSI (Mutual Supporting Institution) 事業への取り組みがはじまりました。

- ・ MSIとはいかめしい呼称だけど簡単に言えば互助会のこと
- ・ 多くのNPO/NGOが協力して、一つの事業に取り組む
- ・ 事業そのものが社会的な意義をもつ
- ・ 貢献に応じて収益の還元を受ける
- ・ 事業を通じて新しい人の交流が生まれ、ノウハウを学ぶことを目的としています。

2 名称の由来

「牡丹の花」と「ポタン」の意味を重ね合わせています。牡丹は五月初旬に豊麗な花を咲かせますが、寒気にも強く、他の植物が冬休眠状態に入っている時でも、すでに、地中の根は活動を始め、その朱色の太い芽は遅く、力が漲っているそうです。「ポタン」は、離れたものを繋ぎ合わせるものです。

「ぼたんの会」の事業は、参加される皆さんが、交流を楽しみ、文化を楽しみながら、次代を担う人材や市民活動団体を財政的に支援することを目的としています。具体的にはチケット販売の売り上げの四〇％～五〇％を還元するMSI事業方式によって収益を寄付いたします。要は、努力に応じて収益の還元を受けられる仕組みがユニークなのです。



夜会・ぼたんの会の風景から

2004.3.23

ヴィッセル神戸のオーナーや  
フロント、プレーヤーも参加



ジャッキー・ヒロさんのマジックショー





3 「ぼたんの会」の事業と組織

過去の事業

二〇〇三年

四月一日

「夜会・ぼたんの会」

(北野ガーデン)

四月一日

リレートーク 永六輔 灰谷健次郎 柳田邦男 (松方ホール)

九月二日

「加藤周一講演会」(朝日ホール)

十月 六日

「摩耶はるこコンサート」 (神戸風月堂ホール)

二〇〇四年

一月一六日

「天満教子コンサート 折り」 (神戸新聞松方ホール)

三月二十日 (金)

トーク・ナイト 永六輔・灰谷健次郎

四月二三日 (金)

「今、一番いいこと」 (ラッセホール)

「夜会・ぼたんの会」 We love Kobe & Visual Kobe

(北野ガーデン)

組織

「ぼたんの会」実行委員会は、代表・黒田裕子、事務局長・野崎隆一のもと一六の団体が構成されています。

4 今後の展開について

MSI事業をNGO/NPOの共同事業と捉えれば大きな可能性を含んでいると思います。

こうした文化イベントだけではなく、スポーツイベント、出版、CD制作、ツアー、商品開発、販売なども視野に入れて、ここから新しい事業が立ち上がってくる可能性をもっていると考えます。ぼたんの会に限らず、MSI方式を「自立のひとつの健」として広めていきたいと考えています。

成功の鍵は「繋がる」と境界を「越えていく」だと思います。2回の夜会を終えて、システムの課題も見えてきました。構成団体のモチベーションを維持するための還元方法の変更の議論をはじめています。



5 獲得した資金

MSI事業によるNGO/NPOへの資金還元額は五百万円を超えました。高い理想、大きな視野、強い意志をもって、この試みを大きく育てていきたいものですね。



雨上がりの庭園で  
魅惑のバリダンス



会場で談笑するゲストのみなさん

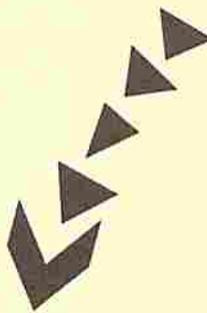
リサイクル寄付事業始めました

しみん基金こうべでは、会員の皆様からいただいた会費、寄付金等をその基礎として、様々な市民活動をされておられる団体のための助成事業を展開してきました。昨今の状況をみますとNPO・NGO等という言葉も広く認知されてきており、日本の市民社会においても市民活動の概念が浸透してきているなど嬉しく感じる次第です。

しかしながら経済的な状況は、まだまだ先進諸国の状況からはほど遠く離れており、私たちのような助成事業を使命とする団体の頑張りどころではないかと認識しています。

従来も助成事業規模の拡大を念頭に財源確保の試みを模索してきましたが、この度しみん基金こうべとして、リサイクル寄付事業を始めめることにいたしました。

私たちの活動の最終目標は「二十一世紀の市民社会にふさわしい魅力と活力ある地域の創造に寄与」することです。財源確保のためあれこれの一点は大切にしたいと考え方法論を模索している中で、私たちの志に理解ある業者の方と出会い、提携の申し出をいただきましたスタートを切ることができたのが、このリサイクル寄付事業です。



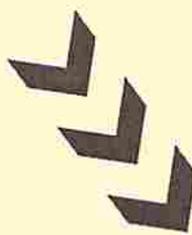
リサイクルという言葉は、私たちにも身近な言葉になっていますが、どれだけ私たち自身でリサイクルという考え方を理解しているでしょうか。

ゴミの分別回収など資源の有効利用のためのリサイクル活動はもう一般的な認識として普及しています。でも、資源の再利用というその行為自体が環境負荷にもなり得るという点に危うさを感じてしまいます。リサイクルという活動を極力環境負荷のないように行っていくには、「手元にあっても必要なくなったもの」を「必要としている人たちのもと」にお届けする。これが「たったひとつの冴えたやり方」ではないかなと思います。私たちは今回のリサイクル事業で二つのやり方で進めてゆきます。

ひとつは、古着を扱うリサイクル事業です。垂水と六甲道にお店を持つ古着を扱う業者さんである「オレンジスリフティ」さんにご協力をいただいて進めてゆきます。オレンジスリフティさんの店頭で古着の寄付(募物)を受け付けていただきます。オレンジスリフティさんで査定を行っていただき、換金した額のお金をしみん基金に寄付していただくという形です。

もうひとつは、家電製品・家具などを扱うリサイクル事業です。西神と垂水でリサイクルセンターを運営しておられる「株式会社ベイエリア」さんに協力いただいて進めてゆきます。これについてはしみん基金こうべ事務局で受付いたします。事務局で受け付けしました先様にコンタクト、査定・引き取り・換金をしていただき、換金した額のお金をしみん基金に寄付していただくという流れになります。

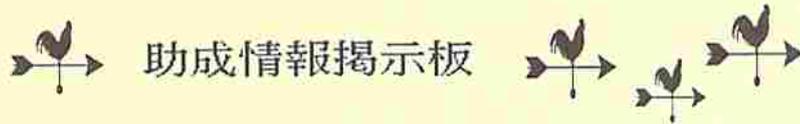
どちらの事業もただ仕組みを作るだけでは成果を上げることはできません。広く市民の皆様に、私たちの志のあるところをお知りいただき、ご理解いただかなければいけません。本紙をお読みの会員の皆様にも、両事業にご協力お願いしますとともに、ご友人・お知り合いなど広く市民の皆様に両事業のことを周知願えますよう、ご協力のほど宜しくお願いいたします。



古着リサイクルお問い合わせ先：  
電話078-709-7791(古着deチャリティ垂水寄付センター)

家電製品・家具などリサイクルお問い合わせ・受付窓口：  
電話078-230-9774(しみん基金こうべ事務局)

お問い合わせ・お申し込みお待ちしております・・・



兵庫県から情報をいただきました。



**阪神・淡路大震災10周年記念事業  
あなたの10周年記念事業を応援します！**

あなたの震災10周年記念事業を応援します。  
 「経験と教訓の継承」「心からの感謝」「がんばりの確認、励まし」  
 「先導的取り組みの発信」を目的に、各種団体が実施するシンポジウム等の  
 記念事業を募集しています。  
 記念事業に登録すれば、推進会議の情報誌やホームページで広報するほか、  
 一定の要件を満たす事業には、事業費の一部を助成します。  
 (補助対象経費の1/2以内、上限200万円)  
 16年度分の助成申請締切は8月末、11月末の2回。  
 ◆ 阪神・淡路大震災10周年記念事業推進会議事務局  
 TEL 078(362)3955 <http://web.pref.hyogo.jp/hukkou/10th-year/>

**第3回マイクロソフトNPO支援プログラム  
マイクロソフト株式会社**

締切り日： 2004年7/20  
 ※必着、電子メールでの応募のみ  
 分野： ITの活用(分野は不問)  
 E-mail: [jnp03q@microsoft.com](mailto:jnp03q@microsoft.com)

「市民活動センター神戸」様からの御紹介で  
掲載させていただきます。

Panasonic&JIYD  
 子どもサポーターズマッチング基金  
 松下電気産業株式会社  
 (協働事務局：  
 (特) 青少年育成支援フォーラム/JIYD)

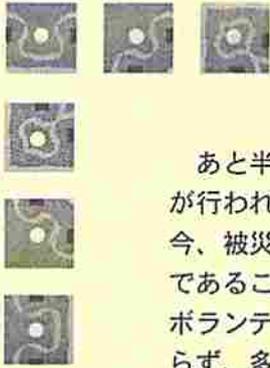
締切り日： 2004年7/23  
 ※当日消印有効  
 分野： 青少年育成  
 TEL: 03-3440-3373 FAX: 03-3440-4447  
 E-mail: [grant@JIYD.org](mailto:grant@JIYD.org)

Panasonic&EFF  
 環境サポーターズマッチング基金  
 松下電気産業株式会社  
 (協働事務局：  
 (特) 地球と未来の環境基金/EFF)

締切り日： 2004年7/23  
 ※当日消印有効  
 分野： 環境  
 TEL: 03-5775-3536 FAX: 03-5775-3599  
 E-mail: [info@eco-future.net](mailto:info@eco-future.net)

information 04'07 for you

.....このページは、いろいろな団体の助成金に関する情報を掲載するコーナーです。助成金広告の掲載をご希望の方は、しみん基金こうべの事務局までご一報ください。



## 10年目のひとりごと

～今、立ち戻る場所は～

あと半年余りで、阪神・淡路大震災から10年を迎える。この1年、様々な検証が行われ、あらゆる角度からの提言がなされた。そして、10年目を目前に控えた今、被災地は10年目の記念事業の立案真っ盛りである。確かに10年は節目の年であることに間違い無い。社会情勢や被災地への見方も随分と変わってきている。ボランティア元年と呼ばれ、震災を契機に生まれた市民活動は、被災地復興に留まらず、多方面での活躍が見られる。NPO法が施行され、法人格を取得できるようになり、まだまだ見直すべき点は多いものの、制度も整ってきている。

しかしである、本当に私たちが節目の年に考えなければならないことは別にあるように思う。6千余りの尊い命を失い、その中から学んだこと、それは、難しい言葉や制度、また、大規模災害に耐えうるハードだけではないはずである。

「人を生かすのは人と人とのつながりであること」「信じあう心が人々をまとめあげること」市民活動とボランティアの原点であり、私たちが忘れかけようとしていたこんな事を、もう一度考える機会にして欲しいと強く思う。「喉元過ぎれば・・・」では、今の政治と同じで、余りにも悲しい。

瀬戸口仁三郎



## 会員数とご寄付の報告

(2003年4月～  
2004年3月)

◆正会員  
個人34名 団体5名

◆賛助会員  
個人102名 団体20名

◆寄付・募金合計金額  
2421517円

◆寄付者・募金一覧

(敬称略・順不同)

柳田邦男・中島秀男・白水士郎・  
赤川久雄・永松由美・キャラメル森・  
ぼたんの会実行委員会・掛井博子・  
兵庫韓商四十周年チャリティコンサート・  
兵庫遊戯業協同組合・白石勝・  
あじさいの会・バンブー・coop・  
被災地NGO協働センター・  
KCCライフプランセミナー・  
部落解放研究第三七回全国集会・  
神戸まちづくり研究所・募金箱α

皆様、ありがとうございました。

「しみん基金・KOBENews」の運営を  
支えて下さる賛助会員と寄付を  
募集しています。

個人会員 年間 3,000円  
賛助会員 年間 10,000円



お申し込みは電話・FAX・電子メールなどで、  
お名前・住所・電話番号をお知らせ下さい。

振込口座 三井住友銀行 三宮支店 普通7965892  
みなと銀行 本店営業部 普通1597921  
近畿ろうきん 神戸支店 普通4161854  
郵便振替 00990-5-157334  
口座名義「しみん基金・こうべ」

### ◆あ と が き◆

事務所の片隅にバキラという名のミニ観葉を置きました。説明書には「水耕栽培でも土栽培でも可」とあります。ん、なんでもこいというわけ。いのちの可能性の多様さを感じさせる言葉です。

小さなガラスの容器の底に水と小石を入れて、その中央に、少しだけ根の生えた枝をさしてみました。なかなか質素で奥ゆかしいはずまい。

ひと思ついで、ふと説明書の続きに目を落とすと、「熱帯の常緑高木、成長速し」と。えっ、ミニ観葉じゃなかったの？事務所の天井を突き破ったらどうでしょう・・・

そういえば、天井を突き破るくらい勢いのある団体がたくさん、しみん基金を取り巻いています。貴い思いのこもった活動に日々邁進されている、そのエネルギー。しみん基金もまたその団体の皆様から元気をいただきながら育てられていくのかもしれない。(S)